

日本医科大学(後期) 英語

2023年 3月1日実施

[I]

- 問 1 (1) c (2) e 問 2 b, c, d
問 3 (1) a (2) b 問 4 (1) c (2) a
問 5 (1) d (2) e 問 6 (1) c (2) b
問 7 (1) d (2) c
問 8 (1) a (2) c (3) a (4) b (5) d

< 講評 >

例年通り、発音・語彙に関する小問集合が出題された。文法正誤問題がこの大問に組み込まれる形で出題されたのも、本年度前期と同様。文法正誤問題の難易度は例年に比べ控えめであった。

[II]

- 問 1 [1] separating [2] continue [3] caring [4] considered [5] include
[6] diminishes

問 2 番号 : 9

内容 : 体育の授業で日常的に高負荷運動を行い、食堂から超加工食品を排除する動きを、一部の学校だけでなく全世界的に行うこと。

問 3 番号 : 5

内容 : 私たちがどのように動き、外界を探索し、自然と接するののかという、生来備わっている特質で、私たちの認知・思考機能にも影響を与えるもの。

問 4 医学の専門家である筆者らは、母なる自然が私たちに授けてくれた、健康にまつわるもっと原初的で基本的な機構を見逃していたということ。

問 5 記号 : (い)

理由 : 第 3 段落第 8 文に、親から仕向けられてスポーツを始めた学生の 75% が 15 歳までにそれをやめてしまうと述べられているから。

記号 : (え)

理由 : 第 8 段落第 3 文に、大半の学生が参加する唯一の身体活動である体育の授業には、学校の健康管理に関する予算の 14% しか充てられていないと述べられているから。

問 6 a, b, d 問 7 c, d 問 8 d 問 9 b 問 10 a

問 11 c 問 12 b 問 13 d 問 14 a

< 講評 >

本年度前期と同じく、記述式長文・マーク式長文・適語補充の各スタイルを 1 つの大問に併合した出題形式が引き続き踏襲された。昨年度は後期のみ、マーク式問題の選択肢が 5 択に増加していたが、本年度は 4 択のままであった。また、例年通り Choose ALL 型の内容一致問題が 2 問出題された。前期の Choose ALL 問題に比べると難度が高く、やや慎重な検討を要する。しかし、問 8 以降は平易であるため、ここできっちり得点を回収しておきたい。

なお、問 2 について、出題者の意図としては第 6 段落最終文の “the ability to immediately address this crisis” という記述に注目させ、コロナ以降の内容を解答とすることを想定している可能性もある。しかし、ほぼ同じ内容が第 9 段落第 5～6 文にてより具体的に説明されており、また問題文では「最も明確に説明されている段落」を求めていることから、第 9 段落の方を正答とし、それに依拠して内容説明を行った。

[Ⅲ]

(解答例)

Play constitutes the foundation of physical identity, and through play, children learn to make their own decisions and develop social skills, according to the author. In my case, I think physical identity was acquired to a certain extent through table tennis. In table tennis, you not only have to hit the ball back to your opponent, but you also have to read his or her moves. I feel that reading the opponent's movements and acting accordingly helps me to communicate with others in my daily life. I hope that being able to respond appropriately to others will be my strength when I work as a doctor.

(106 words)

< 講評 >

大問Ⅱで論じられている “physical identity” について、あなた自身が遊びを通じてどの程度それを高めてきたかを論じる問題。例年通り、本文の内容に関連したテーマの自由英作文であった。問い自体は平易なものの、内容を 100 語レベルにまで膨らませるのにやや苦勞したかもしれない。

【総評】

大問構成・出題形式ともに本年度前期と同一。全体としての難易度も総じて前期と同等であった。一次通過ラインは、他科目との兼ね合いもあるが 65～70%程度か。

医大別直前二次試験対策講座(後期)

- 金沢医科大学 (般後)
- 埼玉医科大学 (般後・共)
- 日本医科大学 (般後)
- 昭和大学 (般Ⅱ期)
- 聖マリアンナ医科大学 (般後)
- 日本大学 (N方式2期)
- 藤田医科大学 (般後・共後)

合格を勝ち取る！
各大学の二次試験の要点解説と面接対策



◆各講座の時間割・受講料・会場についてはHPでご確認ください。

本解答速報の内容に関するお問合せは



医学部専門予備校
YMS

☎ 03-3370-0410 <https://yms.ne.jp/>
東京都渋谷区代々木1-37-14

医学部進学予備校



☎ 0120-146-156
<https://www.mebio.co.jp/>

医学部専門予備校



☎ 0120-192-215
<https://www.mebio-eishinkan.com/>

メルマガ登録または LINE 友だち追加で全科目を閲覧

メルマガ登録



LINE 登録

